

【数字を読み解く】120.7万人泊

～外国人延べ宿泊者数ほぼゼロに、国内客で補う必要～

<2020/11/6 大分合同新聞掲載>

数字は、観光庁が公表している「宿泊旅行統計調査」にある、2019年の大分県における外国人延べ宿泊者数だ。感染症の拡大以降、大分県への外国人観光客はほぼゼロ（前年比マイナス100%）に近い水準まで減少しており、今後急速な回復は見込み難いことから、この減少分を国内客で補っていく必要がある。

そのためには、県内客獲得に向けて、他県で実施された施策とその効果などを検証しつつ、大分県独自のさらなる観光応援施策が展開されることや、近隣県からの誘客を狙った観光応援施策が効果を上げていくことが期待される。また、関東や近畿などからの観光客を拡大していく余地もあろう。国内客数を増やすためには、感染症の影響により海外旅行を断念した層を獲得することが重要と考えられる。2019年の日本人出国者数は約2千万人に上り、海外旅行に関連した消費額は約4.8兆円と、訪日外国人の日本国内での旅行消費額に匹敵することから、こうした需要を取り込むことがポイントとなる。加えて、若年層に比べ旅行マインドの回復が遅れているシニア層をつなぎ留めることや、県内での滞在日数を増やす取り組み、コロナ禍に対応した観光資源の整備・アピール強化なども必要となろう。そして何より感染予防策や観光情報を適切に情報発信していくことが重要と考えられる。

大分県は旅行者のリピート率が高いだけに、足元で国内客を呼び込むことができれば、新たなリピーター獲得につながり、感染症収束後は従前よりも多くの観光客を獲得できると期待される。（日本銀行大分支店）